

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846 鳥取市扇町21番地
東教発 H29.11.1 №146
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

授業のUD化実現のための研究推進組織の確立

鳥取市立南中学校



鳥取市立南中学校は、平成27年度から授業のユニバーサルデザイン（UD）化による学力向上の取組を進めてきました。この取組を進める上で鍵となっているのが、メンターチーム、教科会を柱とした研究推進組織の確立です。研究推進組織の確立により、40名を超える全ての教員の研究への参画を実現しています。

南中学校の研究推進の構造図

「教科会」を主体とした授業づくり

- ◆校内授業研究会、教科授業研究会において
 - ・学習指導案の共同作成

- ◆1人1回公開授業において
 - ・学習指導案の相互点検

ポイント 教科の本質にせまるUD授業をめざすことができる



校内（全体）研究授業



「メンターチーム」による授業評価

- ◆校内授業研究会において
 - ・メンターチームによるグループ協議

- ◆教科授業研究会、1人1回公開授業において
 - ・メンターチームメンバーの授業を参観及び評価

ポイント 教科を越えてUD授業の視点で多角的に評価することができる

南中学校におけるメンターチームは、

- ・1チーム5～6人
- ・ベテランと若手、そして様々な教科の教員が混在



校内（全体）授業研究会グループでの協議は、メンターチームごとに行う



授業のUD化

「わかった」「できた」が実感できる授業づくり

校内研究推進において重要となるのが「共通理解」と「共通実践」ですが、その実現の難しさについてもよく話題に上ります。この難しさを組織の在り方、研究の進め方で解決しようとしたのが南中学校の取組です。教員一人一人が研究推進組織の一員として明確な役割を担い、めざす授業に向かって取り組んでいます。このような取組によって、学校における同僚性の向上も期待できます。

さらに大きな感動へ

局長 森本直子

10月から11月にかけて、各地でスポーツの大会、教育研究大会等が開催されています。各学校では文化祭、学習発表会、校内授業研究会が熱心に行われています。

その中での子どもの姿に、大人は胸が熱くなる感動を覚えます。子どもたちは心から湧き上がる感動を体験しています。「苦しくても走り抜いた」「心をつにして合唱できた」「みんなで最高の演技ができた」等、笑い、泣き、喜び、自分の成長を実感できる瞬間です。授業の中でも、「いろいろと考えて、やっと分かった」「みんなで話し合ったら、解決できた」等のすばらしい感動があります。こういう夢中になって取り組んだ行事での感動、授業で分かった時の感動などの積み重ねで、子どもは成長していきます。

このように子どもたちが感動を味わえるのは、4月から教職員が協働性を発揮して教育目標の実現に向かってきた日々の積み重ねがあったからです。学校の取組は船の航海にもたとえられます。いかなる状況であっても常に船はめざす方角を知っているから目的地をめざせるのだと。方向性を確かに、気を緩めることなく、教職員全員で教育目標の実現に向けて進み続けましょう。

一つ一つの感動を積み重ね、心から湧き上がるさらに大きな感動を創るために。

「チームとしての学校」
を実現するために

スクールソーシャルワーカーの有効活用をめざして

生徒指導上の諸問題が複雑化・多様化している現在、教員が様々な専門スタッフ等と連携分担して問題に取り組んでいく「チームとしての学校」の体制を整備し、その機能を強化していくことの重要性が言われています。今回は、専門スタッフのひとつであるスクールソーシャルワーカー（SSW）の有効活用について考えてみたいと思います。

SSWは、「福祉」の専門家

- 社会福祉に関する専門的な知識や技術を有しています。
- 問題を抱えた児童生徒に対して、その置かれた**環境**への働きかけや関係機関等とのネットワークの構築など、多様な支援方法を用いて課題解決への対応を図ります。
- 市町教育委員会に所属し、学校を巡回したり要請等に応じて派遣されたりします。（東部地区）

スクールカウンセラー（SC）は「心理」の専門家。主に児童生徒の**心**に注目して、問題の解決を図ります。



たとえば、こんなケースに対応します

- ◇不登校や暴力行為の要因が家族関係に見られるケース
- ◇不登校の要因に経済面や生活面での不安定さが関わっているケース
- ◇暴力行為の要因として発達の課題が考えられるケース

次のような活用例があります

【ケース会議で】

- ・SSWが参加してアセスメント（情報に基づいた見立て）の支援及びプランニング（目標や具体的な手立てを考えること）、助言

【関係機関等との調整、連絡で】

- ・福祉、保健機関等の支援やサービスの情報提供、各機関等と関係者のつなぎ

【相談活動で】

- ・保護者面談での情報提供、家庭訪問への同行

※その他、児童生徒への相談活動や保護者に対する支援も行います。



本年度から、東部地区全ての市町にSSWが配置されました。各教育委員会に、まずはご連絡ください。

SSWを活用している学校から「教員だけの話し合いで行き詰まりを感じている時に別の視点を与えてもらった」「専門的な知識の裏付けをもらうことで、より自信を持って保護者対応ができた」等の声を聞いています。教員が専門スタッフ（SSWやSC等）と連携して取り組んでいくことが学校全体の生徒指導の機能を高めることにつながっていきます。

学事 コーナー

『給与・勤怠管理システム』の運用が始まります

今まで、職員のサービス・給与に関するものについて、多くは紙面により申請等を行っていましたが、平成29年12月から、職員自身が「給与・勤怠管理システム」に入力を行い申請することになります。



給与明細書

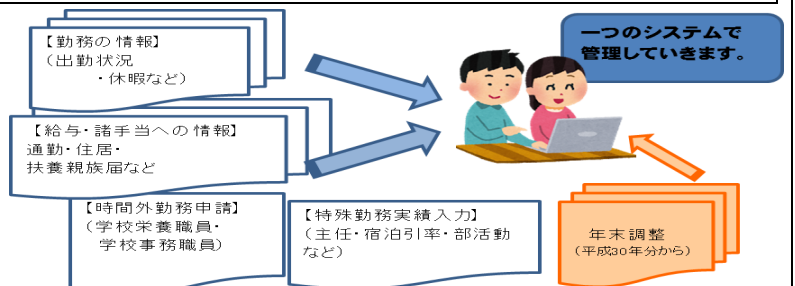
給与明細も画面上で確認します。（印刷もできます。）

毎日 毎月	【勤務の情報・出勤】	出退勤の時刻を入力	毎日入力し、月末には必ず入力を完了しておきましょう。
随時	【勤務の情報・休暇】	年次有給休暇、特別休暇等の取得を事前に申請	
	【特殊勤務実績入力】	主任の業務、部活動、宿泊学習引率等の実績があった職員は該当月分を入力	
	【時間外勤務申請】	事務職員、学校栄養職員が時間外勤務を行う場合、事前に申請	
	【諸手当の申請】	通勤、住居、扶養親族届など新規・変更があった場合にはその都度申請	

これからの主な流れ（予定）

11月中旬～	試行期間	・各学校へ操作システム、操作マニュアル配布 ・校内で操作説明
12月～	入力開始	・出退勤情報、【12月分】特殊勤務実績（主任の業務、部活動、宿泊学習引率等）入力
1月～	運用開始	・運用開始（新システムにより1月分給与、12月実績の手当支払い）

これからは、出勤簿ではなく、システム上で出退勤時刻等を打つこと（打刻）で勤務を証明していきます。そこには、正確な時刻管理が求められます。これを機会に、改めて自身の勤務時間の把握・管理もしっかりと行ってください。導入当初、慣れるまでは戸惑いもあると思いますが、新しいシステムを上手に活用していきましょう。



幼児期の育ちを小学校へ 相互理解を基盤とした幼保小の連携

県教育委員会では、幼保小の円滑な接続をめざし、平成28年度から2年間にわたり「幼保小連携推進モデル事業」を実施しています。この事業は、接続期のカリキュラム編成など、円滑な接続に向けた効果的な取組を推進する市町村を支援し、その取組の全県への波及をねらうものです。今回は、鳥取市教育委員会がモデル地域に選定した醇風小学校区の醇風小学校、鳥取第二幼稚園・おひさま保育園、みたから保育園、むつみ保育園の実践を紹介します。



相互理解を支える醇風小学校区の組織

幼保小連携協議会（隔月開催）

情報交換や実践についての総括

<メンバー>

校長、各園長



幼保小連携推進委員会

接続期のカリキュラム編成・接続期の実践の共有

・幼保小の職員が、学びのつながりを意識しながら、接続期のカリキュラムを一緒に編成

<メンバー>

小学校1年担任
各園代表1名
鳥取市教育委員会



幼保小連絡会（年3回）

児童・園児に関する情報交換

- ・1、2年生と4、5歳児の様子
- ・交流活動等について
- ・就学に向けての引き継ぎ

<メンバー>

1、2年生担任、教頭
4、5歳児担任、副園長

相互理解を推進する活動

○合同授業・保育研究会

授業、保育参観後、研究会に相互に参加

○保育体験

小学校全教員が夏季休業中に参加

○共通実践

挨拶、靴揃え等、発達段階に応じた取組

○交流活動

お互いにならぬ交流の推進



生活科の授業研究会



小学校教員の保育体験

相互理解を深めるカリキュラム

接続期カリキュラム

【教育目標】
「生きる力があふれる子どもの育成」

接続期のカリキュラム
年長児10月から小学校1年生7月までの定着させたい力や具体的活動を示したもの

より具体的に

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
<p>【幼児期】</p> <p>1. 自分以外の存在を受け入れられなかったり、一方的に自分の思いを通し、他人の思いを尊重できず、自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。</p> <p>2. 自分以外の存在を受け入れられなかったり、一方的に自分の思いを通し、他人の思いを尊重できず、自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。</p> <p>3. 自分以外の存在を受け入れられなかったり、一方的に自分の思いを通し、他人の思いを尊重できず、自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。</p>									
<p>【小学校】</p> <p>1. 自分以外の存在を受け入れられなかったり、一方的に自分の思いを通し、他人の思いを尊重できず、自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。</p> <p>2. 自分以外の存在を受け入れられなかったり、一方的に自分の思いを通し、他人の思いを尊重できず、自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。</p> <p>3. 自分以外の存在を受け入れられなかったり、一方的に自分の思いを通し、他人の思いを尊重できず、自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。自分勝手な行動を繰り返す。</p>									

【色分け】

- 桃色：幼児期の体験を生かした学習
- 黄色：学校の生活やきまりに関する学習
- 緑色：生活科中心とした総合的・関連的な学習
- 水色：教科等を中心とした学習

これまでの成果

- * 小学校区で育てたい子どもの姿や定着させたい力を共通理解し、創意工夫のある実践が展開されている。園では就学までに育てたい姿が明確になり、接続期における活動がさらに工夫されるようになった。
- * 小学校ではカリキュラムの共有や保育体験等を通して園の教育について理解が進み、幼児期に培った力を生かすにはどのような教育課程や学習展開が有効か考えることができた。
- * 連携のための各組織が活発に活動し、全職員が各々の立場で相互理解の実践に関わることができた。



鳥取市：幼保小連携推進委員会におけるカリキュラム編成等についての支援
醇風小学校区等の取組をもとに幼児期の学びをリーフレットで紹介予定(全市配布)

鳥取県：醇風小学校区の接続期のカリキュラムを『幼保小連携ハンドブック』で紹介予定(全県配布)

幼保小の円滑な接続においては、環境を通して学ぶ幼児教育と教科書等を使って学ぶ小学校以降の教育の学び方の違いを尊重しつつ、幼児期に培った好奇心や探究力等の学びに向かう力を生かしていくことが求められています。まずは、校区で育てたい子どもの姿を共有し、幼児期に培った力をカリキュラムにどう生かすか、相互理解のために必要な組織や活動はどのようなものかを検討していくことから始めましょう。